
[成果情報名] 大豆を加害するホソヘリカメムシの集合フェロモントラップによる発消長の把握

[要約] 集合フェロモントラップによるホソヘリカメムシの発生時期は越冬世代は3月下旬～4月下旬、第1世代成虫は5月下旬～8月上旬、第2世代は8月下旬～10月下旬である。

[キーワード] ダイズ、集合フェロモントラップ、ホソヘリカメムシ、発消長

[担当部署] 病害虫部

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 大豆

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

大豆の子実加害性カメムシ類は大豆作付前から発生するが、1年間を通じた発消長は明らかでなかった。カメムシ類の発消長を明らかにすることにより、世代数や世代間の増加の様相が把握でき、精度の高い発生予察と的確な防除が可能になる。

そこで、ホソヘリカメムシの集合フェロモンを利用して発消長を明らかにし、防除対策の資料とする。

(要望機関名 : 北筑前普 (H12))

[成果の内容・特徴]

- 1 . 集合フェロモントラップを利用することによりホソヘリカメムシの発消長が把握できる。
- 2 . ホソヘリカメムシ成虫の捕獲のピークは通常年3回あり、越冬世代成虫は3月下旬から4月下旬頃、第1世代成虫は5月下旬～8月上旬頃、第2世代は8月下旬～10月下旬頃発生する(図1)。大豆の子実肥大初期はホソヘリカメムシ第2世代成虫の発生盛期に当たる。
- 3 . 直径約40cmの水盤(プラスチック製のたらい)の水面上約5cmにフェロモンルアーをつり下げてトラップとする(図2)。水には界面活性剤を添加する。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 大豆のカメムシ類防除推進の資料として活用できる。
- 2 . 集合フェロモンがよく拡散するように、トラップは建造物が周囲にない、開けた場所に設置する。
- 3 . 大豆圃場に接してトラップを設置するとホソヘリカメムシが誘因され、被害が発生するので、大豆圃場には設置しない。
- 4 . ホソヘリカメムシの集合フェロモンは平成16年から市販される。

[具体的データ]

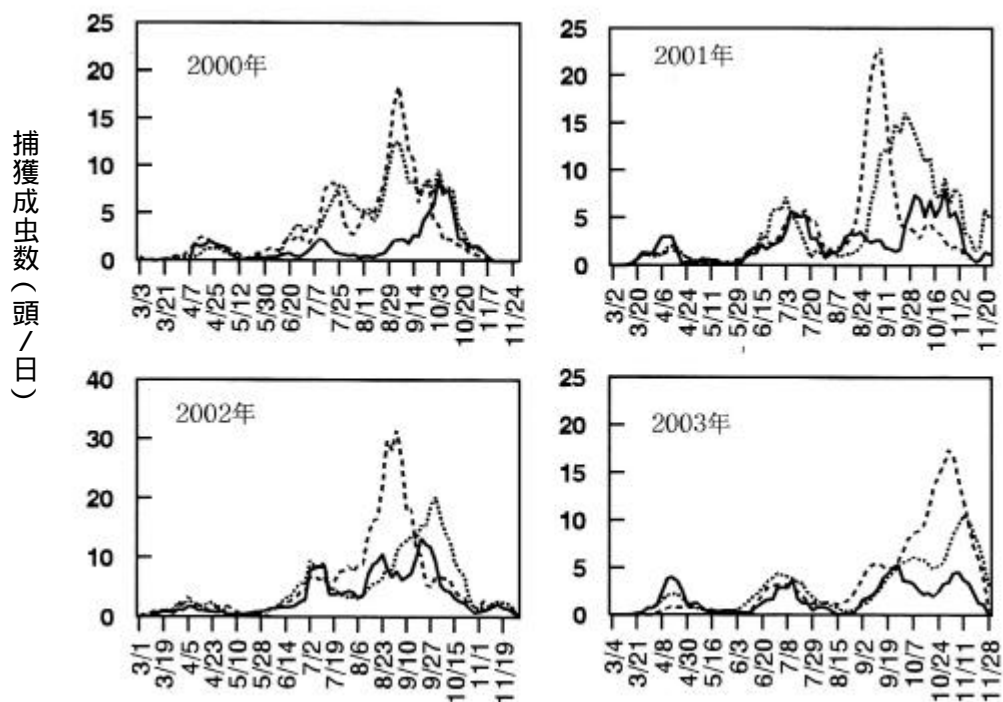


図1 集合フェロモントラップに捕獲されたホソヘリカメムシ成虫の季節的消長
 捕獲数は4点移動平均値、破線：大豆圃場のトラップ、点線：果樹園横の
 トラップ、実線：水田横のトラップ



図2 集合フェロモントラップの構造

[その他]

研究課題名：大豆カメムシ類の簡易な予察法の確立
 予算区分：経常
 研究期間：平成15年度（平成12～15年）
 研究担当者：中村利宣、村上英子